

平成21年4月28日

教職員及び学生の皆さんへ

理事（教育・学術担当）近藤 學  
保健管理センター所長 山本孝吉

### 豚インフルエンザの人における流行について 第2報

豚インフルエンザ（A/H1N1）の人への感染は、メキシコ、米国、カナダに加え、英国、スペインでも確認されました。メキシコではおよそ150人の死者が出ていると発表されています。また、米国の患者などには、豚との接触歴がなく、ヒト-ヒト感染が起こっていると考えられています。また、上記以外に、13カ国で人感染の疑い例があり、地域レベルの流行が起こる可能性が推測されています。

このような疫学的データをもとに、日本時間の4月27日23時、WHOにおいて専門家による緊急委員会が開催され、その結果を踏まえて公表されたWHO事務局長のステートメントの中で、継続的に人から人への感染がみられる状態であるとして、フェーズ4宣言がなされました。

それを受けて日本では、厚生労働省から、メキシコ、アメリカ、カナダにおいて、「感染症の予防及び感染症の患者に対する法律」に規定する新型インフルエンザ等感染症が発生したことが宣言されました。今後、同法や検疫法に基づいて、新型インフルエンザの蔓延防止のため必要な措置を講じられると共に、「新型インフルエンザ対策行動計画」等に則って、国民の生命と健康を守るため、万全の対策を講じていくこととされています。

日本はゴールデンウィークに突入したばかりで、これから海外に向かう人が多数います。ゴールデンウィーク明けには、海外から多くの旅行者が帰ってきます。新型インフルエンザを含む感染症には十分な注意が必要です。本学関係者におかれましても状況を理解して十二分な健康管理をお願いします。

外務省からはメキシコへの渡航については、「不要不急の渡航は延期してください。」との危険情報を4月28日に出しました。また、米国への渡航については現地の状況に応じて渡航を考慮するよう要請がなされています。そして、もし行くのであれば、感染に関する安全対策をさらに強化するよう注意喚起もなされています。

メキシコ、米国以外への海外旅行に行かれる場合でも、出発前には厚生労働省検疫所の感染症情報 (<http://www.forth.go.jp/>) を必ず確認してください。また、帰国時、各空港では検疫が強化されていますので全面的に協力してください。

メキシコに旅行された方は、帰国前後に、学生にあつては学務課、教職員にあつては総務課人事室にそれぞれ届けてください。帰国後10日間は厳重な健康チェック（発熱、倦怠感、せきの有無）が必要です。

今後の蔓延状況や国内での感染者の発生などについて、種々の感染症情報を確認してください。

滋賀大学保健管理センター（0749-27-1024）あるいは同分室（077-537-7709）では、ご相談に応じています。

新型インフルエンザ（豚インフルエンザの人における流行）に関する情報は下記のリンクも御参照ください。

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/090426-02.html>

米国CDC <http://www.cdc.gov/swineflu/>

WHO <http://www.who.int/csr/don/en/>

2009年4月27日 WHO <豚インフルエンザについての Q&A>

[http://www.who.int/csr/swine\\_flu/swine\\_flu\\_faq.pdf](http://www.who.int/csr/swine_flu/swine_flu_faq.pdf)

4月27日付の WHO から出された豚インフルエンザに関する Q&A の要約です。

1. 豚インフルエンザ (Swine influenza)とは？

豚の間では容易に感染する A 型インフルエンザで、死亡率は 1-4%である。豚の咳やくしゃみで伝播し、通年流行の可能性があるが特に秋や冬に流行しやすい。多くの国では豚にインフルエンザワクチンを接種している。

普通、豚インフルエンザウイルスの型は H1N1 であるが、H1N2、H3N1、H3N2 などもある。豚は鳥インフルエンザや人の季節性インフルエンザ（普通のインフルエンザ）にもかかり、時には一時に複数のインフルエンザウイルスに感染することがあり、これが遺伝子再集合の機会を提供する。豚インフルエンザウイルスは、通常、豚にのみ感染するが、遺伝子再集合により、人に感染するようになることもある。

2. 人の健康への影響は？

これまでに人に感染し流行したこともある。一般的には通常の季節性インフルエンザと似た症状であるが、無症状例から致死的肺炎例までさまざまである。

3. 人の感染はこれまでにどこで起こったか？

2007 年以降、WHO が把握しているのは米国とスペインでの感染例である。

4. 人はどのように感染するのか？

通常は感染した豚に接触することによる。しかし、豚に接触していない者からの発生もあるので人一人感染も考えられる。しかしいずれも濃厚接触の場合であると考えられる。

5. 豚肉とその加工食品は安全か？

適切に処理された豚肉や豚肉製品から感染することはない。豚インフルエンザウイルスは 70°C で死滅する。

6. 過去にどこかの国で豚インフルエンザの大流行があったか？

北米、南米、ヨーロッパ、アフリカ、東アジアの各地で流行があった。

7. パンデミックになる危険性は？

現時点ではほとんどの人は豚インフルエンザウイルスに対する抗体をもっていない。豚インフルエンザウイルスが、人一人感染を起こすように変異した場合には、パンデミックになる可能性がある。そして、ウイルスの毒性、人々の免疫能、季節性インフルエンザ感染により獲得した抗体による交差免疫の有無が鍵を握る。

8. 人のための豚インフルエンザワクチンはあるか？

現在人に拡大しつつある豚インフルエンザウイルスを含む人用のワクチンはない。現行の季節性インフルエンザワクチンが交差免疫をもたらす可能性は明らかではない。インフルエンザウイルスは非常に速く変異を来す。最大の防御免疫を得るには、現在

流行しているウイルス株によるワクチンを接種することである。そのために WHO は最も適切なウイルスを選択するために、できるだけ多くのウイルスにアクセスする必要がある。

#### 9. 治療薬はあるか？

インフルエンザ治療薬にはアマンタジンとノイラミニダーゼ阻害剤のオセルタミビル（日本ではタミフル）・ザナミビル（日本ではリレンザ）がある。米国でのブタインフルエンザにオセルタミビルとザナミビルは効いたが、アマンタジンは効かなかったという。

現在のところ、豚インフルエンザの治療・予防に関する薬剤の使用について推奨するには情報が十分とはいえない。米国カリフォルニアとメキシコにおけるブタインフルエンザの流行において、現地当局はオセルタミビルかザナミビルでの治療を勧奨している。

#### 10. 豚と定期的に接触する場合にどうしたらいいか？（略）

#### 11. 豚インフルエンザ感染者からの感染を防ぐには？

過去においては、豚インフルエンザの人への感染は一般に軽症であったが、肺炎など重篤になる場合もあった。しかし現在の米国およびメキシコでの流行については、その臨床像が異なっている。米国の確認例には重症者はなく、無治療で回復している。メキシコでは一部の患者は重篤である。

インフルエンザに対する一般的な防御策を実行する。

- ・病気の人、発熱と咳のある人との濃厚な接触を避ける
- ・頻回に、完全に石鹸と流水で手を洗う
- ・十分な睡眠、栄養をとる

家庭に病人がいる場合には、

- ・隔離した場所を用意する。無理な場合には、1メートル以上離れる。
- ・看病には、フェイスボのマスクで口と鼻を覆う。
- ・看護をした後には、そのたびに、完全に手を洗う。
- ・病人がいる場所の換気をおこなう。
- ・環境を清潔に保つ。

豚インフルエンザが人に感染をおこしている国に居住している場合には、国や地方自治体の保健部局のアドバイスに従う。